

第590回 役員会(臨時) 議事要録

- 1 日時 令和5年7月21日(金) 9時31分～10時40分
- 2 場所 Zoom会議
- 3 出席者 構成員7名：
牛木学長，川端理事，坂本理事，澤村理事，末吉理事，西田理事，
(欠席：塚本理事)
陪席者3名：
富田特命理事，田代監事，逸見監事

4 審議事項

(1) 「共創の場形成支援プログラム」への申請について

「共創の場形成支援プログラム」への申請について、資料1に基づき審議が行われ、提出までに内容の修正等が必要となった場合は、学長に一任することとし、承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・7ページ目のポンチ絵において、現状分析の矢印が将来像に向かい、そこから循環するようにバックキャストする表現となっており、バックキャストの内容と現状分析の内容との関係性が分かりづらくなっているように思う。現状分析の内容がメインになると思うが、バックキャストの部分を下に戻る矢印にしてしまうと循環してゴールにたどり着かないように見えてしまうので、見せ方に工夫をしなければ理解してもらえないと思う。
- ・本質的には、それぞれの現状分析と研究開発課題が対応することになるが、循環するような表現になってしまい、内容が分かりづらくなってしまっている。
- ・最終的なゴールとして、にいがた未来共創会議を開催するように見えてしまい、当該会議の役割が極めて小さく見えてしまう。どうしてもバックキャストの赤い矢印が目立ってしまうので、強調しすぎない方が良いと思う。
- ・文字としてバックキャストの内容を大きく表現するのは良いと思うが、今回のように細かくバックキャストを表現してもそれが生きてこないと思う。また、全体像の中で、コンセプトをしっかりと出せなければ、この内容が明確にならないし、右上部に記載されている未来社会に向かっていけないと思う。
- ・確かに、右上部へ向かう見せ方の方が人間の発想として自然だと思う。バックキャストを意識しているということが分かる程度の表現にして、未来社会に向かうような形でもう一度作り直したいと思う。
- ・ポンチ絵の「現状」の項目の中の問題点について、新潟県の話と全国の話が混在していると思う。本事業は地域共創分野の内容になるので、地域の課題をどう解決していくのかということが出発点になり、そこから全国にどう展開していくのかという内容になると思うので、その課題は意識的に分けた方が良いと思う。

- ・新潟県の課題はある意味で、日本における地方、あるいは世界における地方にも当てはまる共通の課題と捉えており、産官学の連携がしっかりととれている新潟県を一つのモデルとして実施していければ良いと考えている。
- ・外部の人間は、新潟県がモデルになる理由が分からないと思う。日本と地域を明確に分けつつ、新潟県で行う理由を明確にできれば、本事業で実施する意味が出てくると思う。
- ・新潟県で行わなければならない理由は、本文中で強調して記載している。このポンチ絵の中にも記載し、意見のあった内容を反映する形で修正したいと思う。
- ・これまでの意見にもあったように、ポンチ絵でのバックキャストの赤い矢印が目立ち、循環している印象を受けてしまう。また、矢印が左下に下がっていくというイメージではなく、右上に上がるイメージの方が良いと思う。
- ・新潟としての強みをポンチ絵にも反映できると良いと思う。
- ・理想に向けて上がっていくというのが自然な発想であるので、大学主導としてのシードから入るのではなく、地域のニードに応じていくような形で検討していきたいと思う。
- ・今回のポンチ絵の図は、バックキャストで示されるような典型的すぎる図になってしまっていると思う。
- ・バックキャストとして示す場合には、通常は課題に対するものではなく、戦略に対するものであると思う。パターンは良いとは思いますが、記載されている内容が合っていないためにおかしくなっている。

(2) 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」への申請について

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」への申請について、資料1に基づき審議が行われ、提出までに内容の修正等が必要となった場合は、学長に一任することとし、承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・エキスパート人材という言葉を使う場合に、AIエキスパート人材などがよく使われると思うが、ここでいうエキスパート人材は何のエキスパートを想定しているのか伺いたい。
- ・申請書の中では、クリエイティブマネージャーや知財管理の人材、国際戦略の人材などの、具体的な例を示してエキスパート人材の定義をしている。そういう意味では、それぞれのエキスパートの総称としてエキスパート人材としている。
- ・ポンチ絵をどう魅力的にインパクトを持たせるかというところが課題だと思う。
- ・関連事業で設置した施設とその施設との関連といった内容が含まれていないと思う。それがあつて、本事業に繋がっている部分もあるので、記載していなければならないと思う。また、次世代ひとブレインバンクの内容も分かりづらいように思う。
- ・各戦略の内容とその実施内容の具体例との関係性も見えづらくなってしまっているため、表現の仕方を考えなければならないと思う。また、主要なアウトカムの項目もインパクトのある表現にできるようにしていきたいと思っている。

- 21世紀国際ブロードマン地図が最終的なゴールではなく、それらを基にいろいろな研究やイノベーションに発展させるという作りにしなければならないし、大学の業務から開放されることもアウトカムではないと思う。出口を明確にして、その先がどのように広がっていくのかが、ポンチ絵の中で見えてこなければならないと思う。
- 現状ではKPIでしかなく、アウトカムとしてはもう一段階上がったものでなければならないと思う。
- ヒューマンブレインマッピングなどとのネットワークも進んでいかなければならないと思うので、そういうところも表現できると良いと思う。
- 将来的な連携として、そういったものとも連携しながら、本事業が出来上がっていくというイメージにしていきたいと思う。
- ヒト生体分子アトラスプログラムのような一大プロジェクトの日本版といったように、脳の部分は日本で行うという目線で記載できれば、興味を引ける内容になると思う。
- 本学だけでは絶対にできないというものがオープンサイエンスであり、そのプロジェクトの連関の中で作り上げていくとした方がリアリティがあると思う。
- 審査する上でも、ポンチ絵が重要になってくるので、インパクトのある内容を記載できると良いと思う。また、4ページ目の研究者の項目の中に、医局員の人数が記載されているが、本学において医局員という職名は使用していないため、この記載については調整した方が良いと思う。
- 今回、設備費が大きな部分占めているが、ブレインバンクを移設、拡充する際に、オートメーションできるような設備があると良いと思うが、既に考えられているのか伺いたい。
- 参画機関の中には、ファクトリー化され、そういった設備が入っている施設もある。今ある全てのものを置き換えられるかは分からないが、少なくとも、そういった設備を導入して、量が多くなった場合でもハンドリングできるようなシステムを考えている。
- 温度管理や湿度管理も大事になってくると思うが、無停電電源装置のような設備も含まれているのか伺いたい。
- 無停電電源装置等は施設整備事業で要求しており、採択されている。なお、建屋だけではなく、ブレインバンクを含めた総容量で補えるようなスペックを見込んでいる。
- 凍結標本について、大きな冷凍室を設置して、その中で設備を動かさない限りは、自動化はできないと思うが、それだけの資金をそこに充てることができるかは難しい問題であると思う。
- 別枠で資金を獲得していかないと困難であると思う。
- 部分的に自動化できるところから進めていくというスタイルになると思う。

(3) 「新潟大学医歯学総合病院長候補者選考委員会」の委員の選定について

「新潟大学医歯学総合病院長候補者選考委員会」の委員の選定について、資料3に基づき審議が行われ、原案のとおり承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・なし